

EVENT

「ロボット・アバター・ICT」「ウェルビーイング」「サイエンス&アート」「スタートアップ」を中心に 74 イベントを実施し、来場者は 20 万人を超えました。

4月

- ・ 4. 13 開会式
- ・ けいはんなみゅーじあむ（第一期）
- ・ けいはんなサイクルレース
- ・ EXPO KYOTO Meeting（EXPO ホール）
- ・ けいはんな万博 in 夢洲（春）（大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ）
- ・ エジソンの会
- ・ ジャズフェスティバル
- ・ 公園でバレエ
- ・ けいはんな万博 in 夢洲（大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ）

5月

- ・ オープニングイベントのサテライトセッション in 夢洲（関西パビリオン）
- ・ けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN
- ・ れじフェス 美まつり
- ・ ゲーテの会
- ・ TOJ 京都ステージ
- ・ オープンラボ・テックツアー
- ・ けいはんなみゅーじあむ（第二期）
- ・ ロボット・アバター・ICT フェス
- ・ アバターチャレンジ2025

6月

- ・ けいはんなプラザプチコンサート「けいはんな万博記念音楽会」
- ・ けいはんなフィルハーモニー管弦楽団演奏会
- ・ ウェルビーイングフェス
- ・ オープンラボ・テックツアー
- ・ 万博記念コンサート ～ 1970 年から 2025 年の名曲たち～

7月

- ・ 香港食祭
- ・ けいはんな meta 鼎談
- ・ デコーデッド・ニューロフィードバック国際シンポジウム
- ・ けいはんな万博2025テックツアー
- ・ スタートアップフェス
- ・ 未来創造セッション2025 ②技術編
- ・ けいはんな万博 in 夢洲（関西パビリオン 京都ゾーン）

8月

- ・ きょうと国際学生サミット
- ・ けいはんな ふれあいコンサート2025
- ・ けいはんな地球環境ユースサミット
- ・ ほくぶとしょかん 万博2025
- ・ オープンラボ・テックツアー
- ・ 平和をテーマとした「けいはんな映画劇場2025」
- ・ ジュニアロボット教室2025
- ・ エジソンの会
- ・ 自動運転バスの体験試乗会
- ・ 未来創造セッション2025 ③地域編

9月

- ・ 発掘された日本列島2025
- ・ 偏光板アートを作ろう
- ・ けいはんな大学サミット ～けいはんな学研都市の地で未来について考える～
- ・ 「歌は時空（とき）を超えてⅢ」
- ・ 「生命の起源」国際シンポジウム
- ・ 「Global Startup EXPO 2025」（EXPO メッセ）
- ・ けいはんな万博 in 夢洲（秋）（大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ）
- ・ みんなで和太鼓を叩こう！
- ・ 親子で一緒に雨が楽しくなる大作戦
- ・ 「不確実性とともに生きるー未来への鍵」
- ・ ジュニアロボット教室2025
- ・ 「古代都食」探求・開発シンポジウム
- ・ 「けいはんな大合唱」特別練習日イベント
- ・ ナイスポ！ NAIST EXPO 2025
- ・ 木津川アート2025
- ・ けいはんな万博 in 夢洲（大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ）

10月

- ・ 京都スマートシティ EXPO、フードテック EXPO
- ・ ATR オープンハウス
- ・ オープンラボ・テックツアー
- ・ 「Peeping Garden 今日の穴」公演 連携ワークショップ
- ・ けいはんな R&D フェア2025
- ・ 回遊型コンテンツラリーダンス公演「Peeping Garden 今日の穴」
- ・ 観月の夕べ
- ・ ATR40周年記念事業「温故知新シンポジウム」
- ・ 大阪交響楽団 けいはんな未来への扉
- ・ EXPO 酒場 京田辺店
- ・ エジソンの会
- ・ 閉会セレモニー ～けいはんなからみらいへの約束
- ・ せいか祭り2025・子ども祭り

けいはんな万博 2025

「未来社会への貢献 ～次世代への解～」



会期：2025年4月13日（日）～ 10月13日（月・祝）

会場：けいはんな学研都市エリア

けいはんな万博2025運営協議会

■お問合せ：公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部 TEL:0774-98-2245 E-mail: info@keihannaexpo.org

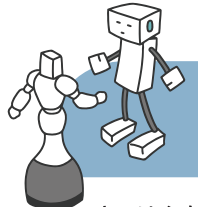
開催理念

けいはんな学研都市は、正式名称を関西文化学術研究都市といい、東のつくば、西のけいはんなと称される、日本を代表するサイエンスシティです。

けいはんな学研都市の特徴は、産官学の連携を主体とし、民間の企業・団体が幅広く参画、3府県8市町の連携により成り立っていることです。

わたしたちは、ロボット開発や情報通信技術をはじめ、地球にやさしい環境エネルギー、最先端医療、バイオテクノロジーなど、さまざまな分野で社会貢献の道筋を模索してきました。

子どもからお年寄りまで、誰もが幸せに楽しく暮らせる社会をけいはんなからつくり、発信し、実現させたい。けいはんな万博は、「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに、わたしたちが科学技術とともに描いた未来を体験、実感できるイベントを多数企画しています。



ロボット・アバター
ICT(情報通信技術)

けいはんな地区で研究が進むロボット・アバター・ICT(情報通信技術)をテーマとしたイベントで、ひととロボットがともに暮らす社会の新たな1ページを開きます。

- ドローン&XRフェス
- アバター(遠隔操縦ロボ)の競技会
- 吹奏楽とアバターのパレード

ウェルビーイング

「健康」「食」「環境」「こころ」をキーワードに、直面する社会課題について、科学技術や文化の力を活用した解決策を提示し、体験できる機会を創ることで、ウェルビーイングの未来を考えます。

- 健康の見える化や食の未来を体感
- 次世代の環境エネルギー技術の公開



スタートアップ

新しい分野へのチャレンジに挑むスタートアップ企業を応援します。新しいサービスや商品のアイデアが実現可能か、けいはんな学研都市で大実験！

- 事業アイデア発表会
- 実験成果の発表展示



サイエンス&アート

「芸術は、人間のセンスと技術によって生み出されるもの」。科学技術とひとが協奏し、共創する新しい文化の形をお楽しみください。

- 未来を体感!参加型科学イベント
- 研究者、哲学者、芸術家などの講演会



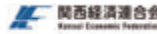
オープンラボ・テックツアー

けいはんなの企業、研究所が研究施設を開放。「科学技術のおもしろさ」と「けいはんな学研都市～周辺地域の歴史・文化・自然」を体験する訪問型イベント。

ポスト万博に向けた若者向けイベント

きょうと国際学生サミット・けいはんな地球環境ユースサミット(8月開催)、けいはんな大学サミット(9月開催)等を通じて、若者の意見を閉会式の「けいはんな宣言」に織り込みます。

サポーターのみなさま



参画機関

イーセップ株式会社 エースジャパン株式会社 大阪電気通信大学 株式会社 FD クリエイト 大阪府 オムロン株式会社
金沢工業大学 環境衛生薬品株式会社 公益社団法人関西経済連合会 関西大学 木津川市 木津川を美しくする会
共栄製茶株式会社 京セラ株式会社 京田辺市 京都光華女子大学 公益財団法人京都産業21 京都大学農学研究所
一般社団法人京都ドローン協会 京都日本文化資源研究所 京都府 京都府立大学 京都府モロロジー協議会 南地区会
公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー けいはんな記念公園 特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ
国立国会図書館 滋賀大学 けいはんなフィルハーモニー管弦楽団 公益財団法人国際高等研究所 四條畷市
株式会社国際電気通信基礎技術研究所 サントリーホールディングス株式会社 株式会社 CCH サウンド 株式会社島津製作所
株式会社 SHIN-JIGEN 新日本理化株式会社 国立研究開発法人情報通信機構 せいか音頭保存会 せいか太鼓 波布理 精華町
精華町商工会 積水ハウス株式会社 大和ハウス工業株式会社 高の原音楽芸術協会 テルモビレー株式会社
公益財団法人地球環境産業技術研究機構 東レ建設株式会社 東京国際工科専門職大学 奈良県 奈良学園大学 奈良県立医科大学
奈良女子大学 奈良先端科学技術大学院大学 ACS 株式会社 株式会社日本政策金融公庫 株式会社 Halle Game Lab
一般社団法人ブレブラ 未来食開発研究センター株式会社 枚方市 株式会社福寿園 任意団体ミラトリエ 山腰登記測量事務所
山城喫茶文化連盟 ゆめ伴プロジェクト (&TEAM EXPO2025 折り鶴 JAPAN) 国立研究開発法人理化学研究所
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 山城経済懇話会 株式会社 Universal Robot Lab ロート製薬株式会社 和束町
株式会社けいはんな 公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

けいはんな万博2025が開幕しました。「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに、ロボット・アバター・ICT、ウェルビーイング、スタートアップ、サイエンス&アートの各分野で多彩なイベントを開催しています。週末の各種イベントを中心に、けいはんな学研都市の研究開発力と歴史文化を活かし、誰もが幸せに楽しく暮らせる社会を考え、創り上げる場となっています。

4/13(日)



けいはんな万博の見どころ紹介、観光大使や子どもたちによるトークセッション、親子コーラス開会式によるテーマソングの合唱などが展開され、約千人の参加者が運営協議会の堀場共同代表の声掛けで半年間の成功を祈りました。📍けいはんなプラザ



夢洲Report

4/23(木)



4/30(水)

けいはんな万博in夢洲

大阪・関西万博会場でも、大学やスタートアップ企業が体験展示やワークショップを実施したり、実証実験中の研究などを披露しました。📍大阪ヘルスケアパビリオン



VRゴーグルで“どこでもドア”みたいな体験が！
(※P12もご参照ください。)



5/1(木)



「けいはんな万博へようこそ」

メタバースからアバターへ乗り移る！平城宮跡のアバターロボットを夢洲から遠隔操作し、観光案内を行いました。📍関西パビリオン

4/27(日)

ジャズフェスティバル



公園でバレエ

4/29(火)



青空の下でジャズを聴き、
芝生の上で、スニーカーでバレエ！

アートイベントも続々 市民参加で盛り上がり

芝生広場では、青空の下、音楽やバレエを多くの市民が楽しみました。
また、貴重な御所人形の展示や人気の妖怪展、地元の小学生が特別出演した狂言や、全世代で楽しめるクラシックコンサートが開催されました。



事前ワークショップ

地元の子どもたちも本番の舞台に登場

5/5(日)

お豆腐狂言



部活動の地域移行等に向けた
実証事業「けいはんなユースウインド
オーケストラ」のゲスト出演も

5/24(土)

ドローン&XRフェス 📍けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)

防災ドローンの展示や、仮想空間でロボットを遠隔操作する体験など、親子連れから高齢の方まで、多くの来場者が最新技術に触れる機会を楽しみました。



初めてコントローラーを握る子どもたちが、
操縦の難しさと楽しさを実感。



マイクロドローンレースでは、スピードと
操作技術に歓声が上がりました。

5/25(日)

けいはんなアバターチャレンジ 📍精華大通り、時計広場ほか

外出が困難な人々の買い物や生活支援の手段として、
アバター技術の可能性を実感する機会となりました。



遠隔操作で3種目に挑む

機材トラブルが続出する中、
懸命な調整に観客も笑顔で応援



上位3チームによる決勝は、マクドナルドでのお買い物



アバターロボットのお世話に四苦八苦しながらも全力を出し切った参加者



けいはんな万博 2025

Summer Highlights

けいはんな万博もいよいよ終盤へ。

大阪・関西万博と連動して進むけいはんな万博の会期もいよいよ残り1か月を切りました。6月のWell-Being Festival(心と体を整えるイベント満載の3日間)、7月のスタートアップフェス(未来を切り拓くアイデアがけいはんなに集結)など、前半の盛り上がりを振り返ります。

6/13(金)
15(日)



Well-Being Festival

未来社会への貢献 ～ウェルビーイングの未来～

けいはんな発の技術から生まれた、健康や暮らしにまつわる体験や試食が大人気。夢洲会場でも人気を集めたユニークな体験展示も登場しました。最終日の15日には、裏千家前家元 千 玄室大宗匠 講演・記念茶会による講演と記念茶会が行われ、“こころの豊かさ”に触れる時間となりました。

展示・体験ゾーン
健やかに生きる未来

地域主体によるまちづくりの紹介や、高床式砂栽培、非侵襲の血糖値測定などの展示に加え、玉露の淹れ方講習、認知機能チェックやヘルスケアロボット、VRリハビリなどの体験には多くの来場者が参加し、にぎわいを見せました。



展示・体験ゾーン
食の未来を考える

日本の食文化と防災技術を融合した「美蓄食」や、未来の食を支える可能性を秘めた矮性イネなどの展示に加え、未利用資源を利活用したお酒の試飲、食分野の課題解決を目指す産学官連携のプラットフォームも紹介されました。



展示・体験ゾーン
未来の環境・エネルギーを考える

「RITE未来の森」、微細な汚染物質やウイルスを除去するナノセラミック分離膜の紹介、また微生物の発光遺伝子を植物に導入することで発光する「光る植物」の体験など、先端技術も多くの関心を集めました。



展示・体験ゾーン
“meta CHA”
メタバース空間内でのお茶体験

360度スクリーンのドームが出現。来場者はアバターとして仮想空間に入り、デジタル茶室での茶会に参加する、メタバース技術と茶文化が融合した新しい形の茶体験を楽しみました。



トークセッション
「みんなで守るいのち」



元関西テレビアナウンサー山本浩之氏の司会で、奈良県立医科大学 細井学長、薬師寺の山田法胤長老、谷口木津川市長が登壇。いのちを守る地域の連携について語り合いました。

健康寿命伸長への提案
-ウェルビーイングと「意識」の関係性-



専門家による講演と対談を通じて、健康寿命を延ばすための「意識」の持ち方や、ウェルビーイングの視点からの実践的提案が語られました。

学研フードテック共創プラットフォーム企画
フードテックで食の未来を豊かに!

「食」×「先進技術」で課題解決を目指す企画が開催され、国内外のフードテック事例を紹介するグローバルなセッションや、植物性出汁の試飲など多彩な展示が行われました。産学官連携による共創の成果がけいはんなから発信されました。

食×先進テクノロジー



6/28(土)

バイオインタラクション研究会
「宇宙と生命・タンパク質」



宇宙と生命をつなぐ知の交流

生命科学と宇宙研究の融合をテーマに、国内外の研究者による講演が行われ、最先端の知見が報告されました。午後はJAXA宇宙飛行士・古川聡氏が登壇。宇宙での科学技術研究の可能性について語り、子どもから研究者まで幅広い参加者が、宇宙とのつながりに思いを馳せるひとときとなりました。

6/28(土)
7/27(日)
8/31(日)

けいはんな万博セミナー
未来創造セッション2025



未来に触れる、未来を覗く、そして未来を育む

ポスト万博シティを見据えた取り組みの一環として、「文化と未来」、「技術と人材育成」及び「明日のけいはんなを考える」をテーマに3回シリーズのセッションが開催されました。文化と科学技術の融合を都市形成の理念とするけいはんな学研都市の未来について、立地機関・学生・地域住民が共に語り合い、未来社会の共創につながるセッションとなりました。

7/24(木)

テックツアー PoC*の現場を見学・体験!

けいはんな学研都市は、次世代の人々が豊かに暮らす“Human-centric”(人間主体)なスマートシティの実現に向けた、“PoCフレンドリー都市”として、技術の実証と市民参加を融合させた取り組みが注目されています。今回のツアーでは、国内だけでなく海外のスタートアップ企業も参加したPoCの現場をめぐる予定です。

*PoC(Proof of Concept): 先端技術の実証や社会的受容性の検証



7/25(金)

スタートアップフェス 世界をつなぎ、未来を創る。イノベーターが集う共創フェス。

国内外のスタートアップ、大学、企業、支援機関が集結したスタートアップフェスでは、ステージセッションや展示・デモを通じて多彩な技術とアイデアが披露されました。来場者との交流も活発に行われ、けいはんな発の共創の可能性が広がる一日となりました。

けいはんなグローバルスタートアップPoCチャレンジ
成果を披露

国内外のスタートアップが先端技術のPoCにチャレンジ。日本市場参入を目指す海外スタートアップも参加し、けいはんなの住民や自治体と連携し、実際の生活環境で技術を検証。ヘルスケア、環境、地域活性化、高齢化などの社会課題に取り組み、デモ・展示とピッチを通して報告しました。



海外スタートアップ紹介
「KGAP+」参加中の

KGAP+(2019年開始、けいはんな学研都市を拠点に、海外スタートアップの日本市場進出を支援するアクセラレーションプログラム) 第13期に参加中の海外スタートアップも登壇し、技術展示や英語ピッチを通じて日本企業や投資家との交流を深めました。



社会課題解決策コンテスト
日台大学生による協働

「少子高齢化が深刻な地方にとっての魅力促進策」を台湾国立成功大学と奈良先端科学技術大学院大学の学生混合チームが発表しました。優勝チームにはPoC実施が支援されます。



パネルディスカッション
スタートアップ輩出のための
サポート施策と工夫

日本のスタートアップ支援の現状をふまえ、国際的な成功事例や多様な支援のあり方をもとに、エコシステムの成熟と文化的変革の可能性を議論しました。



7/28(月)
8/3(日)

夢洲Report

けいはんな万博in京都ゾーン

📍 関西パビリオン

「食」「人間拡張」「VR」をテーマに その最新技術を展示

京都ゾーン「ICHI-ZA KYOTO」では、ウィークテーマ「産業」のもと、“ポスト万博シティ・けいはんな”を紹介。「食」「人間拡張」「VR」をテーマに最新技術を展示しました。



夢洲からけいはんな記念公園をアバター観光

会場内では土日限定でアバターロボットの遠隔操作体験も。こども達から年配者まで、夢洲から約50km離れたけいはんな記念公園のアバターロボットを操作しました。公園側では、きょうと国際学生サミットに参加中の海外学生がアバターロボットのモニタ越しに夢洲との交流を楽しみました。



8/7(木)
8(金)

オープンラボ

けいはんな万博2025協賛の7企業・団体のご協力を得て、夏休み特別企画「けいはんなオープンラボ」を開催しました。対象を小学生から大学生まで広げ、普段は立ち入れない研究施設の公開や研究者との直接対話、大阪・関西万博にも登場したガーディアンロボットとの交流など、ここでしか味わえない体験が数多く繰り上げられました。





半年にわたって開催してきた「けいはんな万博2025」は、
10月13日に閉幕となりました。

会期中は「ロボット・アバター・ICT」「ウェルビーイング」「サイエンス&アート」「スタートアップ」を中心に74イベントを実施し、来場者は20万人を超えました。この間、大阪・関西万博に合わせて来日した海外の方々の視察も16件を数えました。

会期は終了しましたが、「アバターチャレンジ」も再始動しており、今後、「ポスト万博シティ」としてさらなる情報発信と人的交流を進めてまいります。引き続き、みなさまのご支援とご参画をよろしくお願いします。

10/11(土)

閉会セレモニー

公募で集まった市民による合唱とアバターロボット「Cocoa」の指揮によるテーマ曲「飛天の奏〜けいはんなSTORY」の演奏で幕開け。堀場厚 けいはんな万博2025 運営協議会共同代表が「閉会はゴールではなく、学研都市の産官学公住連携により、社会課題の解決に貢献していく。地域の力を結集できたのは大きな成果」と挨拶しました。

「けいはんな地球環境ユースサミット」「けいはんな大学サミット」に参加した学生たちが、今後のまちづくりの指針となる「けいはんな宣言」策定に向け、「誰もが学び合えるコミュニティ」「デジタル技術と地域文化の融合」などを提案。未来を担う視点に多くの共感が寄せられました。

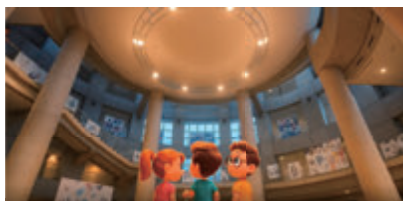
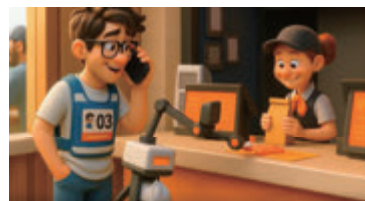
ハイライトは「世界12か国を結ぶけいはんな大合唱」。各国の言葉に翻訳された歌詞で、平和をつなぐメッセージとともに「Believe」の歌声が響き渡り、国境を越えた心のつながりを感じられる瞬間となりました。



遠隔操作の指揮者の手の動きに合わせて、遅延なく滑らかに指揮するアバターロボット「Cocoa」



若い世代を代表し、けいはんな万博に参加した高校生・大学生、大学院生からの提案を発表



けいはんなの未来予想図として制作されたアニメーションも披露されました



9月から閉幕までのプログラムの一部を振り返ります

9/8(月)
9/11(木)

けいはんな大学サミット

～けいはんな学研都市の地で未来について考える～

9月のサミットに先駆け、6月から「未来洞察ゼミ」がスタート。関西を中心に全国から集まった大学生25名が、メンターや有識者のサポートを得ながら未来の潮流を読み解く手法を学びました。9月8日からはけいはんなで3泊4日の合宿を敢行。大阪・関西万博も視察し、講義やワークショップを通して「ありたい未来」を描き、その実現に向けたアイデアを練り上げました。

成果発表では、3チームが「縮小日本が目指すこれからの豊かさ」の軸を提示。AIとの共存が当たり前となった未来では、教育の目的を知識の習得から「問いを生み出す力」へ転換することが必要であることや、距離や時間などの物理的制約を超え、現実と仮想が融合する社会を構想したり、意思決定（政治を含む）を「自分ごと」とし、メタバース国会で政策立案を体験しながら市民が主体的に未来をデザインする仕組みを示しました。

人口減少や技術の急速な進展を「停滞」ではなく「新たな豊かさを創造する機会」と捉えた本サミットは、学生の意思と柔軟な発想、熱意が光る場となりました。



9/21(日)

けいはんな万博2025シンポジウム

「不確実性とともに生きるー未来への鍵」

AIやテクノロジーが進化し未来予測の精度が高まる一方で、不確実性は残ります。この不確実な時代にどう向き合うか、本シンポジウムでは、けいはんなにゆかりのあるノーベル賞受賞者・山中伸弥氏と田中耕一氏が講演。続く未来対話セッションでは、若い世代にエールを送りつつ、不確実な時代を切り拓く知恵を探りました。



9/19(金)
30(火)

夢洲Report

けいはんな万博in夢洲

大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ



大阪・関西万博会場では、春に続き、けいはんなの魅力伝える展示やワークショップ、デモセッションなどを開催しました。

19日はけいはんなに立地する企業や研究機関・団体など16社が参画。研究内容や製品の体験ブース、科学実験、野菜の収穫、および茶摘み体験などのワークショップには、多くの来場者が詰めかけました。

また30日は、海外やけいはんなのスタートアップが、住民参加で実証中の先端技術について紹介。ステージでは、スタートアップ各社がカーボンニュートラルやグリーンエネルギー、未来のヘルスケアなどを提案しました。

9/23(火)

こだいみやこしょく

「古代都食」

探求・開発シンポジウム

歴史が息づき、豊かな文化と風土を受け継ぐけいはんなの地で、古代の食文化をテーマにしたシンポジウムが開催され、約100名が参加しました。古代の食文化の研究者や料理家による講演に加え、商品開発コンペでは、事業者や学生の6チームが、古代の知恵と現代の発想を融合させたオリジナル商品を発表しました。試食品の提供に、会場は大いに盛り上がりしました。



9/27(土)

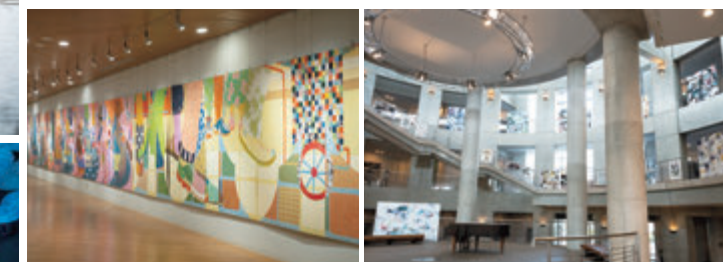
10/13(月)

木津川アート2025

けいはんな万博に参画した今回の木津川アートは、「とびら」をテーマに、はじめて木津川市を飛び出し、精華・西木津地区(けいはんな記念公園、けいはんなプラザ他)でも作品が展示されました。けいはんなの研究機関や企業、団体との共創による作品づくりも行われ、まちの風景が展示会場になりました。



作品が公園の水辺や芝生、巨石の上に設置され、自然と響き合うアート展示となりました

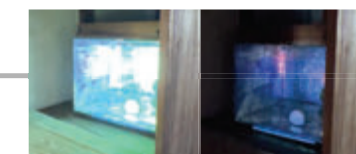


けいはんなプラザのアトリウムが作品のショーケースに

アーティストの作品制作に協力した、研究者の声

作家さんにお越しいただき、研究の内容についてざっくばらんにお話をしました。私自身は、芸術作品とは全くかけ離れたことに従事している(と思っている)ので、作家さんにどのように「料理」してもらえるのか、とても興味がありました。出来上がった作品を拝見しましたが、「こんな切り口が!」と驚き、しかもアート作品として仕上げていただいていたので、とても感動しました。

QST関西光子科学研究所 研究推進室 赤木 浩 氏



自然の象徴とも言える木津川の石と、最新鋭技術との出会いを強い光(レーザー光)の点滅で表現

10/2(木)

3(金)

オープンラボ・テックツアー

けいはんな万博開催期間としては最後となる今回は、一般・ビジネス目的の方を対象に、「協働ロボットのプログラミング体験」や、研究開発拠点・実験施設等の見学、住育エデュテインメント施設体験などを実施しました。普段は入ることのできない施設にも入り、装置や技術の説明に熱心に耳を傾ける参加者の姿が各所で見られました。



Symposium

けいはんな万博2025シンポジウム

不確実性とともに生きる ー未来への鍵

プログラム

■開会挨拶

上田 輝久
国際高等研究所 理事長

■基調講演1 山中 伸弥 氏

不確実な中でも走り続けること
ーiPS細胞研究の医療応用に向けてー

■基調講演2 田中 耕一 氏

思い通りに行かなかった事ばかりだが
それが思いのほか良かった

■休憩

■未来対話セッション

■閉会挨拶

堀場 厚
けいはんな万博2025運営協議会
共同代表

コーディネーター 鈴木晶子 氏

未来対話セッション Q&A

Q1:逆境をどう乗り越えましたか？

山中:人生は山あり谷あり。悪いと思ったことが、後から良いことだったと気づくこともある。底に落ちたときは「高く飛ぶための準備期間」と考えている。

田中:逆境の中でも、後に役立つ経験になることがある。

Q2:やりたいことの優先順位はどう決めればいい？

田中:優先順位を決めても、状況次第で変わる。基礎から学んだことは、いつか必ず生きる。

山中:大学に入ったら、いろいろ挑戦して失敗してほしい。今はまず受験勉強を頑張る。

Q3:ノーベル賞につながる研究テーマはどう選んだ？

山中:諦めかけた研究に再挑戦する機会を得て、やけくそで始めた幹細胞研究が成果につながった。

田中:専門家なら避けるようなテーマに挑戦したことで、専門外だからこそ見つけられた発見があった。

山中:iPS細胞も、専門外だったからこそ挑戦できた。知識が多すぎると、逆にブレーキになることもある。

Q4:偏見や先入観から脱するには？

田中:難しいが、専門以外の道もあると考えることが大切。専門外だったからこそ、先入観がなかったのかもしれない。

Q5:イノベーションを起こすには？

田中:鉄道の進化のように、異分野との融合が新しい価値を生む。異分野と関わることで、イノベーションが生まれる可能性がある。

Q6:不確実性の時代に、カオスをどう生かす？

山中:失敗には2種類ある。実験ミスによる「悪い失敗」と、予想外の結果が出た「良い失敗」。後者は大きなチャンス。

田中:ある分野での失敗が、別の分野で活かせることもある。失敗を一面的に捉えないことが大切。



山中 伸弥 やまなか しんや

京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授
公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団理事長

1962年 大阪府出身、神戸大学医学部卒業、
大阪市立大学大学院医学研究科修了(博士)
1999年 奈良先端科学技術大学院大学にて初めて自身の研究室を開設
2010年 京都大学iPS細胞研究所所長
2012年 ノーベル生理学・医学賞受賞
2020年 公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団理事長



田中 耕一 たなか こういち

島津製作所 エグゼクティブ・リサーチ フェロー
田中耕一記念質量分析研究所所長

1959年 富山県出身、東北大学工学部電気工学科卒
1983年 島津製作所入社、中央研究所に配属
1992～2002年 英国の島津製作所関連会社に2度の出向
2002年 ノーベル化学賞を受賞
2003年より現職



鈴木 晶子 すずき しょうこ

国際高等研究所主席研究員
理化学研究所客員主管研究員
京都大学名誉教授

今回のシンポジウムは、国際高等研究所の前所長であり、京都大学総長としてiPS細胞研究を支え続けた故・松本紘先生の発案によって実現したものでした。山中先生は講演の冒頭で、松本先生から1年前に登壇を依頼されたこと、そして今年6月に逝去されたことに触れ、深い感謝と哀悼の意を表されました。

若い世代との対話を大事にされた松本先生の想いを受け継ぐように、シンポジウムの後半では、「未来対話セッション」と題し、高校生から大学院生まで6人の学生が登壇。総合司会を務めた鈴木晶子・国際高等研究所主席研究員のコーディネートのもと、学生たちの率直な問いに対し、両氏は自身の経験を交えながら、ユーモアと誠実さをもって、一人ひとりの質問に丁寧に応じられました。

セッションの最後には、鈴木氏が「不確実性と向き合う我慢強さと楽観主義を鍛えたい」と語り、未来を生きるヒントが詰まった対話の時間となりました。

シンポジウムのアーカイブ動画をこちらからご覧いただけます。
https://youtu.be/BZ5HSKR_1nQ



京都大学iPS細胞研究財団

iPS細胞は世界の研究機関・製薬企業で新しい治療法の開発ツールとして使われています。

iPS財団では、再生医療の研究開発を推進している企業・研究機関を対象に、iPS細胞や関連技術を良心的な価格で提供しています。こうした活動を通じて、将来、iPS細胞が実用化された時、多くの方が受けられる医療として普及することを目指しています。



島津製作所 田中耕一記念質量分析研究所

当研究所は、質量分析装置の新規技術と応用技術の開発を推進するため、2003年1月に開所しました。

MALDI-MS(マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法)をコア技術とし、タンパク質を原因とする病気の超早期発見や、糖鎖など生体分子の構造解析手法の研究、次世代質量分析システムの開発などに取り組んでいます。